

授業改善書

科目名	日本史概説
担当者	福島 良一

授業の概要

本授業は、幕末・維新期の日本の歴史を取り上げた。特に徳川封建体制から明治の近代国家への変革のプロセスについて、時代を揺り動かした人物や政治勢力および事件・出来事などに焦点をあてながら講義した。授業では、西洋からの外圧によってもたらされた衝撃とその克服への試みが、日本の近代化の方向性を決定づけたことを明らかにしていった。

授業の問題点

「授業についての評価」に関する各評価項目は 4.0 前後となっており、おおむね好意的な評価が得られた。本授業は人間文化学科の専門科目ということで、大多数の受講者が人間文化学科の学生ということもあって、多くの学生は興味をもって話を聞いてくれたのではないかと考えている。

しかしながら、「授業に対する学習態度」における授業中の質問や発言に関する受講者自身の評価は 3.2 となっており、やや一方通行的な授業になっていたことは反省する必要がある。

学生の授業満足度

本授業の「授業満足度」に関する 2 項目の評価はともに 3.9 であり、一定の満足度は認められる。だが 3 点台という数字には留意する必要がある。授業での話には興味はあったものの、十分に内容を理解できていなかった学生が少なからず存在していたのではないと思われる。このことが、授業満足度の評価点を抑えてしまっている理由なのかもしれない。

授業改善の課題と方策

学生の授業満足度を一層向上させることが、授業改善の課題であるが、本授業の場合には、授業内容の理解度を高めることが重要であると考えられる。そのための方策としては、授業外学習（予習・復習）の励行を学生により促していくとともに、授業において双方向型ないし対話型の授業形式をさらに取り入れ、学生の興味を引き出しつつ、理解を深められるように努めていきたい。

その他